

1. 「差別をなくして最高の笑顔を」

「差別はいけない」という教育は進んでいるけれども、やはり根強く残っているのが「偏見」ではないだろうか？肌の色の違い・信じる宗教・生まれた土地・身体や心の病気・職業…。その根本を挙げればきりが無い。

私自身が体験した、大人の嫌な渦巻きがどのようにして子供の世界に影響を及ぼすか。そして、影響を受けた子供たちの次にとってしまう行動は。その行動を受けてしまった私はその時何を考え、そしてどうなったか。そこで出会った「いい大人」から受けた「いい影響」と「がんばるエネルギー」。大人の何気ない言葉を子供が耳にすることで「偏見」が植え付けられてしまう過程。また、それを防ぐためにはどうしたらいいのか？身近にまだまだ残っている「差別」「偏見」。どのようにすればなくなるのかは分からない。でも、やめようとする活動は止めるわけにはいかない。身近にたくさんの「偏見のもと」は隠れています。見つける必要もありますし、なぜいけないことなのかを説明する必要もあります。隠したままにしていることが1番いけないことなのかも知りません。黙って口を閉ざすことで誤解を広げることにもなるんです。

みんな「本当の笑顔」を積極的に求めていきませんか？

2. 「桂七福の人権落語」

落語を聴くように楽しい雰囲気の中で、何かを感じてもらえるように心がけてお話を進めております。従来「人権講演会＝つらい・悲しい・暗い」というイメージが定着してしまっており、講演会会場にお越し頂く人が少なくなっているのが現状です。

身近な会話の中に「おや？」と思ってしまうことって無いですか？落語のようにお笑いのエッセンスと落語的誇張で笑いながら「おや？」「あれ？」と思ってもらえれば嬉しい限りです。気づくことで、自分の言葉に良い変化があると嬉しいですし、今後のみなさんの交流にも必ず役に立つはずだと、私は信じています。

話の中で私が出会った「がんばっている人」の言葉や活動をどんどん紹介していきます。活気のある人権講演会もいいんじゃないですか？笑顔がもたらす大きな効果もあるんです。自分も幸せな気持ちになれるし、周囲の人も明るい笑顔になれるはずですよ。

3. 「笑いの中に何かが見える」

よく見聞きする「コミュニケーション」という表現。間違った認識を持っていませんか？知っているようで知らないのが「コミュニケーション」。間違った方向に進むと大変なことに…。

基本は「笑われること」と「笑わせること」の違いをテーマにしている。一口に「笑い」といってもその種類はたくさんある。本当の「笑顔」とは？

「笑ってもいいんだろうか？」なんて感じてしまうような微妙なニュアンスの小唄も落語の世界にはたくさんある。笑うことのできる環境のありがたさや「本当は笑ってはいけないことを今まで笑ってしまっていた」ことに気づいてくれる人も多い。「差別」をなくそうとがんばっている人のほとんどは、他人に対してとても明るく優しい笑顔を見せてくれる。私が出会えた人のエピソードを紹介しながら、がんばる人の笑顔の「わけ」や「どうして」を一緒にさがすような話にしたいと心がけています。笑顔がもたらす幸せや励みのエネルギー。受けたり送ったり。できれば、たくさん送れる側になりたいものですね。